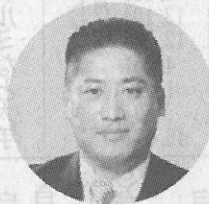


平成21年(2009年)3月4日 (水曜日)

各地の話題—北から南から



上杉 圭司氏
(ウエスギ社長)

「リサイクルを担う企業は全産業に影響を与えるような、経済をけん引できるリーダーシップを執らないといけない」と語るのは被覆電線、非鉄金属、樹脂などの原料スクラップを回収、再資源化を手掛ける総合リサイクル業、ウエスギ(三重県四日市市)



「唯一無二の存在、へ努力」

の上杉圭司社長。

「約半年前までは原料需要が旺盛で、原料価格の高騰と重なり、中間処理業者が原料調達するためには高値に寄せざるを得ない場合があった。今はこのような経済環境で、原料ユーザーの需要が減退しており、高値に寄せてまでの原料調達は解消されている。しかし、われわれが変わらなければ、再び好況になった際、相場に振り回される操業を強いられることになる」とこの先、十分な採算が確保できなければ、リサイクルそのものを脅かしてしまいかねないと危機感を募らせる。

「原料集荷業者が原料を販売する中間処理業者を選択する要素は、われわれの購入価格もその一つだろうが、中間処理業者の価値は原料購入価格以外でも、選定される良い要素を一つでも多く持ち合わせていることではないのか」と各社が会社の付加価値を高めることで、同業他社との差別化を図り、生き残り策を本気で考えることが必要と訴える。

「プラスチック、燃料電池車など新製品、新エネルギーが開発、実用化される一方で、生産に伴う新素材の加工スクラップ発生が見込まれる。そうならばスクラップ排出に困る製造業が出てくる」とが予想され、その時にわれわれが最適なリサイクル方法を提案できるコンサルタント的な役割を担うことが求められるはずだ。5年後はどうなっているか、どうあるべきかを常に先を見据え、皆から必要とされる唯一無二の存在になる努力を今この時にしなければならぬ」。